

# ふれあいだより

山田校区  
ふれあい  
協議会

西区は八月一日一斉に通学路の安全点検とごみ拾いなど清掃活動を行います。私たちのふれあい協議会も呼応し、皆さんのご協力を得て実施することになりました。

## 八月一日・山田小通学路で実施

この事業は西区自治協議会が決められたものです。目的は、一斉に通学路の安全点検・ごみ拾いを実施することで、区の一体感を醸成し、子どもたち

## 西区一斉クリーンデー



クリーンにしたい通学路(右) 電鉄跡地(左)

の安全を守り、環境美化意識の向上と避難場所への経路確認を図るところにあり

## 電鉄跡地の除草を区に要請

電鉄跡地は雑草が生え放題。生活環境部会は今月9日、区に対して①

美観を損ねる②蚊の発生源になる③ごみのポイ捨て場になる、などの理由で、定期的に草刈りか除草して欲しいと要望しました。

## 校舎は来年度着工へ

ところで、山田小の環境整備の進行状況はどうなっているのでしょうか。

改築事業は今年度中に基本設計から実施設計を作る一方、

ます。実施は毎年八月第一土曜日とし、ことしは一日です。私たちのふれあい協議会では、今月八日に実行委員会を開き、まず通学路の確認から始め、山田小の児童を含め百二十人程度の参加者を募る方針を決めました。

作業の方法は、対象ルートごとグループをつくり安全確認をしながらごみ拾いを行います。募集および詳細な実施要領は、追って自治会などを通じてご連絡いたしますが、ご協力をお願いいたします。

それ以外の校舎の耐震診断や補強など改造設計を終える予定で、建設工事は来年度から始まり、再来年の二十三年度中に完成する計画です。

電鉄跡地の自転車道・遊歩道計画は、土地買収がほぼ終わり、青山から高速道インターチェンジ付

近までを今年度中に設計し、私たちのエリアは校舎・グラウンドの一体化問題とともにその後を持ち越される模様です。

## 親子の居場所づくり準備進む

今年度中に山田公民館に設置される「親子の居場所づくり」の準備が進められています。未就園児とその保護者が気軽に安心して遊べ、集えることがねらいです。運営協議会を設け、週一回、二、三時間、一回三、五人の運営スタッフがローテーションを組んで担当するという構想です。

# 石油精製の父 山田の田代虎次郎

郷土の過去、現在を検証する地域学。ふれあい協議会の教育文化部会で取り組みが始まりました。まず対象に明治初期、石油精製法に大きな足跡を残した上山田出身の田代虎次郎を取り上げました。



弥彦公園の田代虎次郎の碑

弥彦公園の小高い山の中腹に石碑があります。高さ2・5メートル、幅1・2メートルという大きなものですが、すっかり苔むし、訪れる人は極めて稀のようです。

虎次郎の顕彰碑でした。虎次郎は、上山田（当時は旧山田島の合子ヶ作村）の田代家に弘化2年（1845年）1月誕生しました。親鸞上人焼酎の旧跡で知られるところとす。

**なぜ弥彦神社に碑建立？**  
石油が日本の歴史に登場したのは天智7年（668年）、日本書紀によると「燃える水」の産

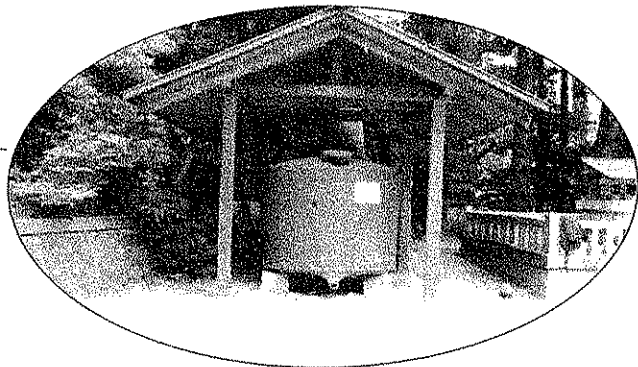
慶応2年（1866年）21歳の青年

地は「越の国」つまり新潟の、旧蒲原、三島、刈羽、古志の各郡内で、弥彦信仰の地域と

虎次郎は京都に出て勤皇党に入り、戊辰の役に参加、鳥羽伏見の戦いなどで武功を上げました。26歳のとき帰郷し、新潟の叔父のもとで石油製造業を手伝いながら、英国人医学者や宣教師から化学工業の知識を学びました。

当時、製油法は幼稚で、日本の石油工業は振るわず、輸入油に押され、虎次郎は歯がゆい思いを持ち続けながら製油の改良に没頭しました。

## 遂に完成「安全灯油用蒸留釜」



弥彦神社境内にある貴重な「安全灯油用蒸留釜」

虎次郎の努力は明治17年に結実しました。原油を釜に入れて熱し、蒸発する重なっています。このため、いつしか弥彦神社が石油の守護神となり、その縁で虎次郎の顕彰碑が建てられたようです。

ガスをパイプで水中を通して冷やし、液体にするという構造で、発火点の高い安全な灯油の製造に遂に成功したのです。この「安全灯油用蒸留釜」は、わが国では2基しか現存していない貴重なもので、その1基が弥彦神社境内にあります。